

## 日本農業気象学会2013年度第4回理事会議事録

日 時: 12月7日 (土) 13:00~17:30

会 場: 東京大学農学部7号館A棟7階セミナー室(東京都文京区弥生1-1-1)

出席者: 大政謙次、小林和彦、小沢 聖、広田知良、菅野洋光、鳥谷 均、宮田 明、富士原和宏、  
林真紀夫、町村 尚、荊木康臣、横山 仁、脇山恭行、石郷岡康史、杜 明遠、平野高司、  
松島 大、中屋 耕、北宅善昭

欠席者: 皆巳幸也、間野正美、細井文樹、沖 一雄(敬称略)

### [議事録・議事要旨確認]

#### 1. 2013年度第3回理事会議事録報告(資料1)(総務 荊木理事)

次回の理事会までに訂正がない場合は確定とする。

### [報告・連絡事項]

#### 1. 編集委員会報告(資料2)

SCI登録の状況について、平野編集委員長より以下のような報告があった。

- ・トムソンロイター社からの正式な通知はまだであるが、*Journal of Agricultural Meteorology*が *Web of Science*に収録され、SCI付与対象となったことを確認した。
- ・インパクトファクターは、2016年(2015年版)から付与される予定である。

この報告を受け、以下のような意見が出された。

- ・投稿数を増やすために、雑誌の今後の方向性について、会員が敷居を高く感じずに投稿できるようにしていく必要がある。
- ・SCI登録を公に広報することによって、増えることが予想される会員外からの投稿についての対応の検討も必要である。会員、会員外の掲載料金については、今後検討していく必要がある。
- ・大政会長から編集委員会に対して表彰を行いたいとの意見が出された。

11月30日に開催された編集委員会に関して以下のような報告がなされた(中屋編集理事)

- ・担当者の交替及び編集方針などを相互に確認するため、編集委員会に養賢堂からの出席があった。
- ・論文の審査状況として、JAM、生物と気象、センシング・モニタリング研究部会特集号(Vol.70 No.3)についての報告がなされた。
- ・SCI登録に関連して、トムソンロイター社による有料のメール配信サービスがあるとの説明がなされた。(審議事項へ)
- ・SCI登録を受けた今後のJAMの編集方針について

①Preparation of the Manuscriptを改定した。(英文校閲中)

- ②投稿された図表原稿がカラーの場合は、WebのPDFではカラーで掲載したい。(一論文あたり1,000円程度の追加コストがかかる)(審議事項へ)
- ③今後、掲載料を徴収する場合は、請求・支払い時期(入金確認後の掲載)について検討が必要である。
- ④A4化を進めたい。(審議事項へ)
- ⑤引用文献の雑誌名の表記方法に関して提案がなされた。(審議事項へ)
- ⑥今後の投稿数増加に対応するため、論文担当理事の増員の必要性についての説明がなされた。
- ⑦今後、部会特集やオーガナイズドセッションの特集などが予定されており、特集号の増加が通常投稿論文の掲載を圧迫する可能性があり、通常投稿論文をコンスタントに掲載していくために、紙面を分け合う等の工夫が必要である。
  - ・論文賞と奨励賞の推薦を行った。

## 2. 学会賞の関連報告(広田理事)(資料なし)

- ・学会賞審査委員会の審査結果が報告され、普及賞(3名)、論文賞(3報)、奨励賞(1名)の候補者が紹介された。また、岡田審査委員長より出された審査の付帯意見(対象論文の種類に関する意見、論文賞の推薦に関する意見)が報告された。
- ・永年功労会員表彰審査委員会の審査状況が報告され、被推薦者4名が紹介された。
- ・メールにて投票を行い、12月中に決定したいとの報告がなされた。

## 3. 日本農業工学会報告(資料3)(総務 荊木理事)

- ・30周年記念シンポジウムの開催、30年記念小冊子のコンテンツ案、フェローの推薦依頼について報告がなされた。
- ・2014年5月の記念シンポジウムの講演者の推薦について報告がなされ、小沢副会長に人選をお願いすることになった。
- ・日本農業工学会から分担金の値上げの意向について報告がなされた。(審議事項へ)
- ・シンポジウムの要旨集買い取りについて報告がなされた。(審議事項へ)
- ・日本農業工学会理事を奥島会員から荊木理事に変更したとの報告がなされた。
- ・日本学術会議で、大学教育の分野別質保証に関して、「農学に関する参照基準」を作成しているとの報告がなされた。

## 4. 日本農学会関連報告(資料4)(総務 荊木理事)

- ・平成26年度日本農学会シンポジウム「未来を変える農学研究の新技术」(仮)で広田会員を推薦したとの報告がなされた。
- ・農学会賞の推薦について本年度はなかったとの報告がなされた。来年度は、当学会からの推薦を行うことが望まれるとの意見が出された。

## 5. 2014年北海道大会の進捗状況(資料5)(広田理事)

- ・北海道大会の進捗状況について以下のような報告があった。
- ①オーガナイズドセッションは国内(6件)、ISAM(3件)の申込があった。
- ②公開シンポジウムの講演者3名が決定した。シンポジウムは、学会員を中心に興味のある一般の方々も参加をできるようにしたい。
- ③懇親会は3/19(木)18:00から行われ、食材(米 小麦等々)や乳製品の提供の予定がある。
- ④企業展示18件、広告3件の申し込みがあった。なお、HPを見ての申込が2件あった。
- ⑤エクスカーシオンは、空知のワイナリーと酪農家の訪問を予定している。
- ⑥ポスター賞の審査員を理事および評議員にお願いする予定である。
- ⑦会計が採算の見込みが出てきた。
- ・エクスカーシオンを大会日程に入れてほしいとの意見が出され、修正することになった。
- ・ISAMホームページ等でSCI登録されたことを掲載することが承認された。
- ・大会ホームページに要旨集のみの販売価格を掲載してほしいとの意見が出され、掲載することになった。

## 6. 2015年関東大会進捗状況(資料なし)

- ・宮田理事より、実行委員会はこれから立ち上げる予定であるとの報告がなされた。
- ・鳥谷理事から、大会の2つのコンセプト(①学生会員・正会員・賛助会員のための大会/②コミュニティの形成促進)について説明がなされた。

## 7. その他、各担当理事からの報告(総務 荊木理事)

- ・農業気象リスクマネジメント研究部会の活動報告と予定が紹介された。(資料4)
- ・林理事より、11月29日・30日に公開シンポジウムを東海支部とエネルギーフォーラムの共催で開催したとの報告がなされた。

## 8. その他

- ・荊木理事より学術著作権協会、出版者著作権管理機構の分配金について報告がなされ、鳥谷理事より補足説明がなされた。(資料6)
- ・取材要請時の対応について、小沢副会長より、取材要請の経過説明がなされた(資料別紙)。今後の対応について、学会宛の取材依頼があったときは、電話であってもメールで理事の方々に一斉配信を行い、推薦・紹介をお願いし、荊木理事が取りまとめを行うことが確認された。
- ・会員数および会費未納会員について報告がなされ、(資料7)(会計 杜理事)2年間と3年間の会費未納者に対して、理事より声掛けを行うこととなった。
- ・横山理事から後援2件、協賛2件、共催2件行ったとの報告がなされた。(資料8)
- ・荊木理事より、2016年大会を中国・四国支部で担当することに決まり、開催地は3月までに確定したいとの報告がなされた。

- ・鳥谷理事より、農業環境技術研究所の30周年記念シンポジウム開催の報告がなされた。(別紙パンフレット)

## [審議事項]

### 1. 編集委員会関連(資料2)

- ・印刷はグレースケール、WebはカラーPDFとすることで承認された。
- ・引用文献リストにおけるJournal名は、省略標記ではなくfull標記することで承認された。また、見開き左ページの上にある J. Agric. Meteorol.もフルテキストで記載することを確認した。
- ・Vol.71(2015年)No.1からA4化をめざし、変更時期の最終判断は編集委員会で行うことが承認された。
- ・SCI登録に関して、トムソンロイター日本支社からの内定通知とWeb of Science に収録されたことについて、会員へのメール配信と学会HPへの掲載によりアナウンスすることになった。なお、今回は、トムソンロイターのメールサービスは利用せず、海外へのアナウンスは、投稿料等の整備などを行った後に行うこととした。

### 2. 日本農業工学会フェロー選出について

- ・岡田益己前会長を推薦することで承認された。大政会長より、今後、支部から推薦できる方がいたらお願いしたいとの説明がなされた。

### 3. 日本農業工学会関連(資料3)

- ・30周年シンポジウムの冊子(定価2,000円)の買い取りについては、正式な依頼があつてから再検討することとした。
- ・農業工学会の分担金の値上げについて、財政再建のためとの説明がなされた。内訳として均等割30,000円と代議員割30,000円(1名15,000円)になることが承認された。返答の際には、当学会も厳しい状況であるとのコメントを付けることとした。

### 4. 表彰関連の整理(資料4)(総務 荊木理事)(資料9)(広田理事)

- ・荊木理事より、前回理事会での決定事項(功績賞の文言訂正、グループや団体が受賞できるような貢献賞の設定、奨励賞の年齢の引き上げおよび対象論文に短報も含めること)の確認と、前回の理事会後、会長からの提案を受け、フェローの付与条件、若手に対する賞の設定について、富士原理事、広田理事、荊木理事で検討した結果について説明がなされた。
- ・さらに、広田理事より、岡田学会賞審査委員長からの論文賞審査結果の付帯意見(「研究論文が何であるかが不明瞭であったためOriginal Paperを研究論文とした」、「論文賞の推薦が編集委員会からだけでなく学会員から広く出るように努力してほしい」)(資料9)が紹介された。また、広田理事から、現状、学会賞の推薦者が限られているので、理事や受賞経験者から多くの推薦をしていただきたいとの意見がだされた。

これらを踏まえ、論文賞の対象論文、学会賞の推薦方法、フェローのあり方に関して協議した。

・論文賞の対象論文について

論文賞の対象論文は原著論文(Original Papers)とし、短報も含めることとした。なお、「生物と気象」においても短報を含めることを確認した。また、論文賞の推薦に関しては和文誌・英文誌の区別はしないことも確認した。

・学会賞の推薦について

過去に推薦されたが受賞されていない会員の情報をプールしておき、選考に含めるようにすることが可能かどうかを検討するため、総務と庶務が過去のデータの有無の確認を行うことになった。推薦システムについては、あり方委員会が中心となって検討する。また、推薦を積極的に行ってほしい旨を、総会、評議員会で表彰担当理事から呼びかけることとした。

・フェローについて

フェロー表彰について、大政会長より、会員資格としての位置づけなどに関して説明がなされた。また、宮田理事より、前回理事会で議題に上がった学会を辞めた方に永年功労会員表彰の話を持っていくのは難しいとの意見が出された。協議した結果、永年功労会員表彰、功績賞、フェローに関して整理が必要であり、フェローについては、そのメリットや会員資格を含め、総務理事を中心にまとめて、次々回の理事会に案を提出することとなった。

5. 表彰に関する規程の改正について(資料10)(荊木理事)

・規程変更案(資料10)について

- ①論文賞の対象論文を【研究論文】から【原著論文】(original paper、short paper)とすることで承認された。
- ②奨励賞の対象論文を【研究論文】から【原著論文】(original paper、short paper)とし、対象年齢を【30歳以下】から【35歳以下】とする事で承認された。
- ③功績賞の対象を【著しく貢献した】を【顕著な功績をあげた】に変更する。

・貢献賞の新たな設置について以下のような提案があった。協議した結果、貢献賞と功績賞の規程文章を区別しやすいものに訂正することとなった。総務と庶務で検討したのち理事会で確認後、総会にかけることとなった。

①貢献賞の規程案

- (6) 学会運営あるいは農業気象学関連の出版活動、国際会議の開催・運営などを通じて、本学会の発展に貢献した会員または会員を含む団体もしくはグループ(以下この賞を貢献賞とよぶ)

②貢献賞の選考の規程案

- (6) 貢献賞については、審査委員会は被推薦者の学会活動記録、著作物、国際会議開催記録

等を審査し、受賞候補者若干名を選出する。選出手順および審査結果の報告は学術賞に準ずる。

6. 次期役員の選出について(総務 荊木理事)

- ・松岡延浩会員を次期総務理事(会長指名)に任命することが承認された。また、次回理事会で、来年度の選挙の日程の確認を行う。

7. 名誉会員推薦に関する今後について(資料4)(総務 荊木理事)

- ・真木顧問、古在顧問を、総会および懇親会に招待することが承認された。

8. 渡航費補助申請について(資料11)(総務 荊木理事)

- ・渡航費補助費の申請内容を確認の上、「生物と気象」に報告記事を書くことを条件に50,000円の補助費が承認された。

9. 北陸支部の現状と将来について(資料12)(総務 荊木理事)

- ・北陸支部では実働メンバーが減って活動が難しくなっているとの皆巳理事からの報告を荊木理事が紹介した。また、東海支部の現状が林理事から説明がなされた。
- ・北宅理事が関連支部との意見交換を行い、次回理事会で報告することになった。

10. Global FAMSへの参加について(資料13 & 別紙)(小林副会長)

济州島で、世界気象機関(WMO)の専門委員会の1つである農業気象委員会(CAgM)が、他の2つの専門委員会(ClimatologyとHydrology)と合同開催した会議について、以下のような報告がなされた。

- ・WMOが掲げるGFCS(the Global Framework for Climate Service)を実行に移すため、CAgMが主導する以下の計画の会合が開催された。

①Global Federation of Agro-Meteorology Societies (GFAMS) steering committee

②Global Alliance of Phenology Observation Networks (GAPON)

③Global Center of Research and Excellence in Agricultural Meteorology (GCREAM)

- ・GFAMSに関しては、2014年4月のトルコ開催(4年に1度)の16th WMO CAgMで承認を得て発足をめざして、今回、GFAMSの規則のドラフト(別紙)が提示された。
- ・GFAMSに日本農業気象学会が参加するかについて、その目的や会費等に関する情報も提供され、協議した結果、参加することで承認された。なお、規則の内容については、意見があれば小林副会長に連絡することになった。

11. 評議員会、総会資料について

- ・各理事からの報告を、1月をめどに荊木理事へ送り、作成したものについてはメールにて確認を行う。

## 12. 次回理事会

- ・北海道大会の最終日(3月20日)の昼休み

## 13. その他

- ・中国・四国支部から支部会誌(PDF)を本部のHPで公開をしてもらえないかとの問合せがあった。また、関東支部では、現在、利用しているサーバーが来年から使えなくなるとの報告もなされた。これらを受け、学会ホームページの活用について皆巳理事、荊木理事、北宅理事にて整理を行うことになった。